

	課題分析	授業改善策	改善状況 ◎○△
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のしたこと、自分の考えなど、書くことに苦手意識をもつ傾向があり、読むことや書くことの指導に時間がかかる。 ○漢字の定着に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の行動や気持ち、叙述を基に捉えたり、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したりしていくことで、読解力を積み上げていく。また、段落のまとめりや段落相互の関係に着目しながら読むことで、文章の構成を意識して読みを深める力を育てていく。 ○言語活動「それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動」を多く取り入れ、意欲につなげ、思考力、判断力、表現力を育てていく。 ○様々な形式の書く活動を意図的に取り入れ、基礎的なスキルの向上とともに、伝える楽しさを実感させていく。書き慣れることと、語彙を増やすことを目的として、日常的に日記や短作文に取り組ませる。 ○授業の中では、新出漢字の習得時に言葉広げなどをして、語彙力とともにスキルを高めていく。また、個人の能力に合った漢字練習法を提案し、自分に合った方法を身に付けさせる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○興味関心の高い児童とそうでない児童の差が大きい。 ○地図や表などの資料の読み取り能力に個人差が大きい。地図などをもとに考える経験が少ないために、資料活用能力や社会的思考に課題がある。 ○身近な経験で考えをまとめてしまい、一般化した社会的事象として捉えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「町探検」「水道キャラバン」など体験的な活動をもとに調べたり、考えたりする活動を行う。授業の導入時に児童の興味関心を喚起できる資料を掲示する。 ○資料活用能力や社会的思考の定着を図るために、地図や表の見方について中学年で継続して指導し、それをもとに調べたり、考えたりする活動を多くする。 ○タブレットなどを活用しながら友達との意見交流を行ったり、発表を行ったりする。そうした活動を通して、学習を広げたり、深めたりして、社会的事象として捉えられるようにしていく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○問題文から演算決定をするための情報を読み取り、立式する力が弱い。 ○様々な大きさに対する量感や生活経験が不足しており、単位の換算や時刻と時間が苦手な児童が多い。 ○身の回りの事象を簡潔に表現するために、グラフを活用できる児童が少ない。 ○ベーシックドリル診断シートの結果、「式の表し方」「いろいろな単位」「時刻と時間」の定着に課題があることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科での学習に概数の考えを用いたり、生活の中で概数を用いる場面を想起させたりして活用する力を養えるようにする。 ○問題文をよく読んで、ポイントをとらえ、図に整理する学習を繰り返し、それぞれの量を捉えることができるようにする。 ○具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し合ったり、学び合ったり、高め合ったり、するなどの学習活動を積極的に取り入れる。 ○ベーシックドリルを活用し、一人一人の課題のある領域の定着を図っていく。 	

理科	<p>○教科書の文章や写真、教師の説明だけではイメージしづらく、理解が難しい児童が見られた。</p> <p>○正しいノートの取り方、実験記録のかき方の定着に個人差が大きい。</p>	<p>○導入を工夫し、学習の流れをつかませ、課題をもたせて学習を進める。</p> <p>○動植物の飼育など体験的な学習を継続的に行っていくことで、興味・関心を高め、知識・理解にもつなげていく。</p> <p>○観察する際には、比較しながら調べる能力が身に付くように、視点をしっかり押さえて指導する。</p> <p>○板書を簡略化し、プリントやシートなどを活用しながら、書き方の指導を継続的に行う。</p>	
音楽	<p>○歌唱ではフレーズを捉えて強弱等を工夫して歌うことに課題がある。</p> <p>○リコーダーでは運指操作をスムーズに行うことや、やさしい息の使い方のできる音色で吹くことに課題がある。</p> <p>○鑑賞では感じ取った曲想を、その根拠となる音楽の諸要素と結びつけて考えることや言葉で表すことに課題がある。</p>	<p>○楽譜からフレーズや音の高さを視覚的に捉えたり、範唱を聴きながら強弱の変化を聴き取り、なぜそう歌うのか考えたりする学習過程を取り入れる。</p> <p>○少人数で演奏する場を設定し、自分のリコーダーの音をよく聴く過程を大切にす。また、個別に確認し支援を行う。</p> <p>○感じ取った曲想と音楽の諸要素を結びつけて考えられるよう、「なぜそう感じたのか」を教師が意図的に発問し考えていく学習過程を取り入れる。</p>	
図画工作	<p>○「感性や想像力を働かせ」て、「表現したり鑑賞したりする」資質・能力を、スパイラルに育成する必要がある。</p> <p>○思考力・判断力・表現力等を高め、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習の場が「“国語”言語活動か」、「“図工”言語活動か」を意識して取り組む必要がある。</p> <p>○「活動を通して何が身についたのか」という視点に度々戻り、学習・指導の改善・充実を進める必要がある。</p> <p>○生活を豊かに美しくする造形や美術の働きについての理解を進める学習を充実させる必要がある。</p>	<p>○「表現・鑑賞」全ての造形活動に「造形遊び」の要素を取り入れ、児童が主体的に活動できる中で、楽しく感性や想像力を育てていけるようにする。</p> <p>○鑑賞の対象の幅を「生活の中の造形」等、作品以外にも目を向けられるように育てる。</p> <p>○〔共通事項〕アの、形や色などを造形的な視点でとらえられるように、一部に“知識”も用いる。</p> <p>○「A表現」の指導にあたり、児童が自分の良さや可能性を見出せるようにする。</p> <p>○常に児童が主体的に活動できるように工夫することで、楽しく活動できるようにする。</p> <p>○「“国語”言語活動」を「B鑑賞」のみから、「A表現」でも扱う。</p>	
体育	<p>○運動を楽しもうという意識をもった児童が多い反面、経験不足から苦手意識をもつなど、運動することに対する意欲に個人差がある。</p> <p>○勝ち負けにこだわりすぎて、感情的になってしまう場面がある。</p>	<p>○意欲を高め、技能のポイントを学びやすくするために、学習の場を工夫する。</p> <p>○経験不足を補うために、ウォーミングアップなどで、基本の動き、多様な動きを取り入れ、年間を通して積み重ねていく。</p> <p>○うまくできている児童の手本や映像などを見せ、具体的な動きをイメージすることができるようさせる。</p> <p>○良いと思ったことや工夫できることなど、運動に対して思考する場面（学習カード等の振り返り）や、全体やグループ（チーム）で共有する時間（話し合い）を意図的に設ける。</p> <p>○勝負に固執せず、チームごとのめあてや課題をクリアしていく視点も含めて授業を進めていく。</p>	